

秋田市女性活躍推進事業【秋田市】

地域の実情と課題

本市人口ビジョンでは、2040年における人口は、2010年と比較して約27%減少する見込みであり、多様な人材が社会を支えていく必要がある。

平成24年就業構造基本調査では、本市における管理的職業従事者に占める女性の割合は4.0%と、有業者に占める女性割合44.4%と比較して著しく低く、女性が能力を十分に発揮できていない状況にある。

事業の特徴

- 学識経験者や企業、行政、各種団体の役職者等で構成する秋田市男女共生推進会議と連携し、事業の進捗や実施状況を報告し、助言を得るなどした。
- 企業や行政、各種団体等の女性活躍推進担当で構成する秋田市女性の活躍推進シンポジウム実行委員会を設立し、それぞれの立場から意見を出し合い、事業の企画・運営・検証等を実施した。

事業の効果

- 事業のターゲットを明確化することで、効果的に、女性の活躍推進について理解を深め、企業や団体における中核を担う女性人材の育成を促すことができた。
- 事業に参加した女性などを本市女性人材リストに登録し、審議会への委員登用、女性活躍推進に関連する他の事業への参加促進が図られた。(新規登録者12人)

目的・目標

課題解決に向け、女性が活躍できる環境の整備を最優先し、管理職層の意識改革を推進するためのシンポジウム、女性自身がキャリアを積み重ね、企業や団体等の中核を担っていく意識の醸成を図るための研修会を開催した。

〔目標〕 事業総参加者数 690人 ⇒ 〔実績〕 694人

連携団体

〔秋田市男女共生推進会議〕

秋田大学、秋田県立大学、秋田商工会議所、秋田労働局、秋田人権擁護委員協議会、秋田県助産師会、秋田市小学校校長会、金融機関、秋田県中央男女共同参画センター、あきたF・F推進員

〔秋田市女性の活躍推進シンポジウム実行委員会〕

秋田商工会議所、秋田労働局、秋田人権擁護委員協議会、秋田県中央男女共同参画センター、金融機関、市民活動団体、あきたF・F推進員

今後の課題

- 女性の活躍推進に向けた環境整備に向け、事業を継続して実施するとともに、内容を一層充実させていく必要がある。
- より多くの企業・団体の方々から参加していただけるよう、経済団体などとの連携を強化していく必要がある。
- 企業・団体などの所属を超えた参加者同士のネットワーク拡大を図る必要がある。

事業の概要

女性の活躍推進シンポジウム

女性をはじめとした多様な人材の活躍促進のための意識改革を進めたほか、市民に向けて、女性活躍推進に向けた企業・団体等の活動を紹介するパネル展、ブース展を同時開催

○開催日時等

平成29年11月25日(土) 11:00~16:45

①シンポジウム「ダイバーシティ推進と働き方改革」

川島 高之 氏(NPO法人ファザーリング・ジャパン 理事)
佐々木 智佳子 氏(マックスバリュ東北 代表取締役社長)
長代 良子 氏(住友生命秋田支社 支社長)

②分科会「女性が働きやすい職場制度」 「女性のキャリアデザイン」

③女性活躍推進に向けた企業・団体の活動紹介パネル展

④職業生活に役立つブース展

○対象者 企業の経営者・管理職、各種団体の役職者等、秋田市民等
〔参加者 600人〕



女性の活躍推進研修

女性自身がキャリアを積み重ね、将来、企業や団体等の中核を担う意識の醸成を図るため、イクボス、ダイバーシティ、コミュニケーションの視点を取り入れた研修会を開催

○開催日時等

平成29年12月18日(月)13:30~15:45

①「女性の活躍を推進する職場環境について」
本田正博 氏(あきたこまちネット 代表社員)

②「多様なキャリア形成を目指して」
高橋一貴 氏(アスカ人事労務パートナーズ 代表)

平成30年1月15日(月)13:30~15:00

③「リーダーに求められるコミュニケーションスキル」
高橋静子 氏(あきたAT研究会 代表)

○対象者 管理職、人事労務担当者、女性中堅社員ほか
〔参加者 94人〕



連携体制

○秋田市男女共生推進会議

〔学識経験者や企業、行政、各種団体の役職者等で構成〕

・事業への助言および周知、参加促進等を実施

○秋田市女性の活躍推進 シンポジウム実行委員会

〔企業や行政、各種団体等の女性活躍推進担当で構成〕

・事業の企画・運営・検証等を実施